



600万人目の親切さんが誕生 ふるさとの 温かな想いを つなぐ

島根県益田市
ねむ
「合歡の会」

「親切さん」を表彰する「小さな親切」実行章は、親切運動が発足した昭和38（1963）年からスタートし、今年4月、累計受章者がついに600万人を超えました。58年間、途切れることなく表彰が続けられたのは、親切な行為によって、人の想いや温かさが地域に伝わり、新たな親切さんへと心のバトンが引き継がれたからでしょう。

節目の600万人目となった「合歡の会」（島根県益田市の皆さんもまさに、地域の方が大切にしてくれた想いを、次世代を担う青少年につないできました。

同会の主な活動は、子どもたちの登下校の見守り活動。過去には泣きながら歩く新入生の手を引き、一緒に登校してあげたこともあったとか。進学や就職などで、故郷を離れ

た子が帰省すると、お土産をもって会いに来るといふ、もう一つの家族のように子どもたちを温かく見守る皆さんです。

また、田植えや稲刈り、しめ縄づくり、地域のお祭りなどを子どもたちと一緒に体験し、世代を超えた交流を楽しむとともに、地域の文化や風習を伝えることにも貢献。さらに、一人暮らしの高齢者世帯を回り、安否を確認したり、あいさつを交わしたりと、多岐にわたる活動は地域の方に大変喜ばれています。

「合歡」とは、「ネムノキ」の別名で花言葉には、「歓喜」「胸のときめき」の意味が。同会の活動はまさに、地域の方やメンバーの「歓び」。草野幸子代表は、「今後も地域に根差した活動が続けたい」と語ってくださいました。



しめ縄づくりを伝承



保育園児と高齢者世帯を訪問



5月12日（水）、山陰本部（事務局：山陰合同銀行）の藤井尋文実行委員より、草野幸子代表へ賞状ならびに記念の楯を贈呈。

